

2010年12月2日

米国アヴェオ社とのがん領域創薬・トランスレーショナル研究提携に関する オプション行使のお知らせ

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）は、同社の米国持株子会社アステラス US ホールディング Inc. の 100% 子会社である OSI Pharmaceuticals, Inc.（以下「OSI 社」）と米国のバイオ医薬品会社アヴェオ社（英名：AVEO Pharmaceuticals, Inc.、本社：マサチューセッツ州ケンブリッジ、President & CEO：Tuan Ha-Ngoc）が 2009 年 7 月に締結した Human Response Platform™（以下「HRP」）を含むアヴェオ社独自の創薬研究基盤技術に関する提携契約について、OSI 社が当該技術を自社に移管し継続使用するオプションを行使しましたので、お知らせします。

2007 年 10 月に最初の提携契約を締結して以来、アヴェオ社と OSI 社は、HRP を活用して、がん領域における上皮間葉転移（Epithelial-to-Mesenchymal Transition; EMT）の原因となる機序を標的とした分子標的薬の創製と、その効果が期待される患者層を予測するバイオマーカー探索のためのモデル系とデータベースの構築に注力してきました。EMT は腫瘍増殖とがんの病態進行に関与するプロセスとして、がん治療薬開発において治療標的対象およびトランスレーショナル研究対象として注目されています。OSI 社は、自社で創製した世界でも有数のがん治療薬 Tarceva®（一般名：erlotinib）の効果が一層期待される患者層を予測するためのトランスレーショナル研究を通じて EMT に着目しました。OSI 社は、EMT を重点的に研究することで、がん創薬研究における、競合他社と差別化されたリーディングポジションを確立することに成功しました。

本オプション行使に基づき、OSI 社は、アヴェオ社に総額 25 百万ドルのライセンス延長料を支払います。12.5 百万ドルは即座に支払われ、残りの 12.5 百万ドルは OSI 社への技術移管が完了後支払われます。技術移管は 2011 年 7 月に完了する予定です。

なお、12.5 百万ドルの初回支払いは、アステラス製薬の 2011 年 3 月期第 3 四半期の研究開発費に計上しますが、当期（2011 年 3 月期）業績予想に織り込み済みです。

アステラス製薬は、2014 年度を最終年度とする現在進行中の中期経営計画において、がん領域に積極的に取り組んでいくことを掲げています。2010 年 6 月には、がん領域において分子標的薬の創製、開発、商業化にフォーカスしている医薬品企業である OSI 社を買収しました。このたびのオプション行使は、OSI 社統合プロセスの重要な一歩であり、将来にわたるがん治療薬創出の基盤技術強化に寄与するものと期待しています。

HRP について

HRP は、ヒト臨床がんで検出される癌化遺伝子変異を導入し、かつ、遺伝的多様性を獲得できるアヴェオ社独自のマウス癌モデル系です。本系における腫瘍-腫瘍間の遺伝的多様性はヒト臨床がんでの多様性と類似しており、薬剤応答性群、薬剤非応答性群を生み出し、薬剤応答性と遺伝子発現情報の相関解析を可能にし、その情報は臨床開発で応用されています。

アヴェオ社について

アヴェオ社は、独自のがん生物学研究・技術基盤と開発・商業化の専門知識を組み合わせることで、がん治療薬の創出を目指すバイオ製薬企業です。同社で最も開発が進んだ化合物は、経口トリプル VEGF 受容体阻害剤 **tivozanib** です。**tivozanib** は他剤と差別化された特徴を有しており、現在、進行性腎臓がんを適応症とした、全世界第 III 相臨床試験を実施中です。それに加え、抗 HGF 抗体 AV-299 が現在、第 II 相臨床試験段階にあります。アヴェオ社について、さらに詳細な情報が必要な方は、同社のホームページ www.aveopharma.com をご参照下さい。

本件については、現地時間 12 月 1 日に米国において対外発表されています。

以 上